

日本人 x 外国人 多文化共生のまちづくりを伝える

ヨークピア

2020年夏号

ヨークピア

編集・発行

公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)

発行日

2020年8月5日 255号



— Pick up YOKEの事業 —

横浜市多文化共生総合相談センター

外国つながる子ども・若者支援事業

— 多文化共生の現場から —

外国つながる小学生のための学習支援教室 あおぞら

YOKE からのお知らせ

新理事長を紹介します

2020年7月1日にYOKEの新しい理事長として小野崎 信之が就任しました。昨年度まで、横浜市内でインド人が一番多く住む緑区の区長を務めていました。新理事長のもと、YOKEスタッフは支援者のみなさん、外国人のみなさんと共に多文化共生のまちづくりを目指して参ります。これからもご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。



リニューアルしたヨークピアをよろしくお願いいたします

2020年8月号から、ヨークピアのコンテンツを変更し発行することになりました。YOKE 事業や担当者の思い、YOKE が区から受託運営しているラウンジで活動する団体のみなさんの紹介などを中心にお伝えしていく予定です。YOKE について知っていただく共に、これから多文化共生に関する活動をしたい方にとって参考となりましたら幸いです。

公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

〒220-0011 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際会議センター5階
TEL 045-222-1171 (代表) FAX 045-222-1187
E-mail yoke@yoke.or.jp
URL <https://www.yokeweb.com>

横浜市多文化共生センター

PickUP!

横浜市多文化共生総合相談センター

—外国人のみなさんからの様々な相談に対応しています。—

2019年8月1日、公益財団法人横浜市国際交流協会（以下、YOKE）事務所内に横浜市多文化共生総合相談センター（以下、相談センター）が設置されました。これは法務省の外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策 *1 にある支援の1つ「多文化共生総合相談ワンストップセンター」の整備事業で、YOKE は横浜市からの委託を受けて運営をしています。

YOKE では相談センター設置以前「YOKE 情報・相談コーナー」で英語、中国語、スペイン語の3言語で長年相談対応をしていました。1980年代に相談対応が始まった当初は外国人との国際交流に関する情報提供が中心でしたが、在住外国人の増加に伴い生活情報提供や相談対応にシフトし、約40年の間に外国人相談対応に関する多くのノウハウとスキルを蓄積してきました。相談センターはこの「YOKE 情報・相談コーナー」が引き継ぐ形で、体制を強化しながら運営をしています。相談センターでは、一般的な生活相談を中心に対応していますが、専門的な情報提供が必要であると判断した場合は各専門機関を紹介するなどの対応

も行っています。言語は、日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タガログ語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語の11言語で、対



写真：対面での相談対応

電話相談では、3者～4者をつなぐシステムを導入し、相談者 - 回答者 - 通訳がそれぞれその場で話すことなるべく早く相談内容に対応できる工夫がされています。また、端末による通訳や相談も可能となり、市内にある国際交流ラウンジ10拠点 *2 と連携しながら幅広く相談対応ができるようになりました。相談センターでは、外国人だけではなく日本人から相談にも対応しています。



写真：タブレットを使用した相談対応

相談センターでは、外国人だけではなく日本人から相談にも対応しています。多文化共生に関する相談やボランティアに関する情報提供も行っていますので、お気軽にご相談ください。

一般の相談対応の他にも、無料の専門的相談対応を定期的に行っています。在留資格や婚姻等法律に関わ

る相談ができる行政書士相談では、国際業務経験豊かな行政書士と直接相談することができます。教育相談では外国につながる子どもの教育分野を専門とする市内の団体と連携し、学校生活・学習・進学等教育について相談を相談することができます。行政書士相談は11言語、教育相談は英語・中国語・スペイン語・その他の言語で無料相談できます（要事前予約）。戸籍謄抄本・横浜市が発行する住民票の英語翻訳にも対応しています（有償・要予約）。

相談センターは今後も横浜市、相談スタッフ、関係機関・団体と協力しながら外国人、日本人のみなさんが生活しやすい環境づくりを目指していきます。

*1 法務省 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策 http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri01_00140.html

*2 横浜市内にある国際交流ラウンジ <https://www.yokeweb.com/lounge>

相談者のみなさんから 信頼されるセンター

でありたいと願っています。
どうぞお気軽にご利用ください。

相談センター担当者より

「ちょっとこだけ通訳して欲しい」というお手伝いから、「仕事がなくなり生活が苦しい」といったご相談まで、「相談してよかった」と思ってもらえる対応を相談員みんなで目指しています。

相談の現場から

インド籍の夫婦で、夫の仕事で来日して3か月になりました。市販のキットで検査したところ、妊娠が分かりました。後2年は日本で暮らす予定です。夫婦とも日本語は挨拶程度ですが、夫は英語が堪能で、妻は日常会話程度です。何から準備すればよいでしょうか。里帰りするか、日本で出産するか、迷っています。

おめでとうございます。まずは、妊娠の確認のため、婦人科を受診してください。お住まいの近隣で英語対応可能なクリニックをご紹介します。里帰りするか検討中とのことですが、産科のある病院によっては、早い時点で予約がいっぱいになってしまいます。通訳の有無、宗教的な事情や無痛分娩などの希望をよく確認して、早めに予約しましょう。妊娠が確認できたら、区役所で母子健康手帳をもらいます。この手帳には、妊婦健診で利用できる補助券が14枚ついています。また、その他の色々なサポートの情報を14枚ついています。通訳ボランティアを派遣できますので、日程が決まったらお電話ください。外国での出産や子育ては不安もあることと思いますが、多言語資料をお渡ししますので、じっくり読みながら、分からないことがありましたらお気軽にまたお電話ください。

Information

横浜市多文化共生総合相談センター

電話 045-222-1209 FAX 045-222-1187

E-mail t-info@yoke.or.jp LINE @565xgbpz

URL <https://www.yokoinfo.jp>

対応日時 月～金 10:00～17:00（受付16:30まで）

第2・第4土曜 10:00～13:00（受付12時30分まで）

※土曜日の電話相談は日本語、英語、中国語、スペイン語のみ

専門相談（要予約）

〈行政書士相談〉

毎月第1木曜日 13:00～16:00（1件45分）

〈教育相談〉

第2・第4土曜日 10:00～12:30

Pickup! 外国つながる子ども・若者支援事業

横浜市では、外国につながる子どもたちの数が増加しており、2019年5月現在その数は10,103人となっています。市内各地域にある学習支援教室は、子どもたちに日本語や教科を学ぶ機会と安心して過ごせる場所を提供しており、そこでは多くの支援者が活躍しています。(公財)横浜市国際交流協会(以下、YOKE)では、このような支援者の方に役立ててもらうための事業を行っています。

今回は事業担当者の1人、唐木澤 みどりさんに事業のことや外国につながる子どもたちの支援現場について話を聞きました。
※掲載記事はインタビューをもとに編集しています。



ライフステージに応じた 切れ目ない支援

YOKE(以下Y):「外国につながる子ども・若者支援事業」の背景について教えてください。

唐木澤:YOKEでは、以前から様々な事業を通じて、外国につながる子ども・若者の支援を行ってきました。日本語学習支援事業でも、就学前の子どもと親の支援(子育て支援)を行っています。これらの事業をふまえ、外国人の方のさまざまなライフステージに焦点をあて、ライフステージに応じて切れ目なく支援できるようにするため、2017年度から「外国につながる子ども・若者支援事業」が始まりました。

「つながり」を大切にしたい

Y:現在どのようなことを行っていますか?

唐木澤:まず、学習支援ボランティア向けの研修会を2017年度から行っています。主に横浜市内の学習支援教室で活動する支援者が対象で、活動のヒントを得ることや支援者同士のつながりづくりを大切にしています。2017年度から2019年度の3年間は「子どもによりそう支援」を大きなテーマにして開催してきました。



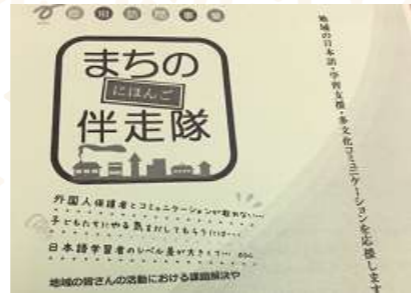
研修会の様子

意見交換や情報交換を目的で行っている事業もあります。学習支援教室は市内に30以上あるのですが、一同に集まる機会がなく、教室同士のつながりが少ないという課題がありました。そこで、2018年度からは市内学習支援教室との連絡会を開催しています。まず、市内国際交流ラウンジ(以下、ラウンジ)で作る協議会の分科会を1つ追加し、「学習支援分科会」を開始し、ラウンジが主催する学習支援教室の情報交換を中心に行っています。さらにラウンジも含めた市内全域の学習支援教室の担当者、運営者を対象とした「外国につながる子どもの学習支援教室情報交換会(横浜)」も開催しています。ここでは研修会で取り扱わない運営上の課題や取組を共有し、教室同士が知り合っつながりをつくることを目的としています。情報交換会は年に1回の開催ですが、もっと機会を増やしてほしいという声が寄せられており、参加者が情報交換とつながりづくりを大切にしていることがわかります。



情報交換会の様子

他にも日本語学習支援事業で、「まちのほんご伴走隊」という個別訪問事業を行っています。教室を訪問し、相談対応や講座実施などのお手伝いをしています。地域の学習支援教室にヒアリングにも行き、各教室での活動の様子や抱えている課題について聞いています。このような事業を今後も続けていきたいと思っています。



まちのほんご伴走隊案内チラシ

Y:研修会の講師はどのような方ですか?

唐木澤:講師には、子どもの日本語教育や外国につながる子どもの支援に携わっている方をお呼びしています。具体的な実践事例の紹介や、参加者の日頃の支援についてグループで話し合う時間なども取り入れています。毎年3回行っている研修会のうちの1回は「みんなどうしてる?」というタイトルで行っていて、市内学習支援教室運営者による事例紹介、横浜市教育委員会担当者による市内小中学校での支援の紹介等、互いに学び合う回を作っています。この場を通して情報やアイデア、ヒントを交換し、抱える課題の解決の糸口を見つけてもらえたらと思っています。

》 研修会参加者の声

- ・ヒントをたくさんもらいました。少しずつ教室の中で工夫していきます。
- ・成長の過程をふまえた支援はとても大切であると再確認したことで、目の前の子どもにより丁寧に対応したいと思いました。
- ・子どもとの信頼関係を築くことや共感することの大切さを改めて学びました。
- ・他団体の方の様々な活動を知ることができて、大変参考になりました。

子どもたちとの コミュニケーションが大切

Y:学習支援教室の現場ではどのような課題や困りごとがありますか?

唐木澤:子ども一人ひとりが、出身国、年齢、来日時期、家庭環境等違うので、その子にとってどのような支援が一番良いかという悩みは多いです。横浜市は外国人人口の増加に伴い、外国につながる子どもの数も増え、学校で日本語指導が必要とされる子どもの増加にもつながっています。学習支援教室でも参加する子どもが増えており、「ボランティアが足りない」「支援者の負担が増えている」という課題も聞きます。また、自分の意志ではなく、親の都合で来日するケースも多く、日本語学習に意欲的な子どもばかりではありません。子どもたちの心理的なサポートや、勉強に取り組めない、やる気がでない子どもへの対応に困っているという話も聞きます。

学習支援教室は「安心できる場所」

Y:来日したばかりで日本語でのコミュニケーションができない子どもの場合、支援者はどのように対応していますか?

唐木澤:お話を聞く中で印象深かったのが、来日したばかりの子には「ここは安全で安心な場所だよ」「ここは間違えても大丈夫な場所だよ」と伝えることが一番大切だという話でした。また、支援者が子どもの出身国の言葉や文化に興味を持って寄り添うことや、両言語で書かれた絵本などを使い、コミュニケーションをとることを大事にしているという話も聞きました。地域の教室では、来日間もない子どもの日本語指導ができる支援者がいるとは限りません。まずは、子どもが安心して、いろいろなツールを使いながらコミュニケーションをとることを大切にしている教室が多いと思います。

Information

外国につながる子ども・若者支援事業 研修会実施等 報告書



外国につながる子ども支援

<https://www.yokeweb.com/kodomo>

Y:これから学習支援ボランティアをしたい方が教室を見つけるためにはどのような方法がありますか?

横浜市内の学習支援教室は、YOKEのホームページ内「日本語・学習支援教室 データベース(横浜)」で探すことができます。教室の情報の中に、ボランティア募集の情報を載せている教室もあります。また近くの国際交流ラウンジに相談すると近隣の学習支援教室について案内してもらえると思います。

地域で子どもを見守る、育てる 支援者も子どもも Happy に

Y:唐木澤さんや他事業担当者が大切にしていることは何ですか?

外国につながる子ども・若者支援の大切さを伝えたいです。大人も日本語ができないことでの苦労はありますが、たとえば母語であれば、自分の意見を伝え、コミュニケーションをとることができます。しかし、子どもの場合は母語も日本語も、成長・発達の上にあるので、より手厚い支援が必要だと思います。学校でのサポートの他にも、「地域でも子どもたちを見守る、育てていく」という観点から、地域の方々の支援は重要です。支援者は、子どもにとって「大事な大人」になります。私たちはYOKEの事業を通して、支援者にとって活動しやすく、やりがいを感じられる環境を作りたいと思っています。そして、子どもも支援者もお互いがHappyになれることを大切にしていきたいです。

多くの人に知ってもらいたい

Y:様々な人が外国につながる子どもたちの力になるにはどうすればよいのでしょうか?

唐木澤:まずは「知る」ということかと思っています。各地で多文化講座などが開催されていますので、

そのような講座に参加するのもよいと思います。直接何か支援をするということだけでなく、知る機会として参加したり、外国人支援の場を見たり、国際交流ラウンジなどに行ってみたり、関心を持ってもらえたらと思います。私自身の経験でもあるのですが、そのような関わりによって、これまで知らなかった世界が広がる楽しみもあると思います。

Y:事業を担当する中で課題や解決していきたいことなどはありますか?

唐木澤:アンケートの回答などを見ると、全ての人のご意見や悩みに答えることは難しく、力不足を感じています。また、今まで在住外国人や外国につながる子どもたちを知らなかった人にも知ってもらい、裾野が広がっていくと良いなと思っています。興味や関心を持つ方がつながるための支援もこれからの課題ではないかと思っています。今回、支援者や、支援に興味を持つ方に向けて、学習支援教室の活動のヒントを集めた「みんなどうしてる?外国につながる子どもの学習支援教室活動ヒント集」をYOKEのホームページで公開しました。ぜひこちらを見てもらいたいと思います。今後は、参考にしてもらえる情報を追加していくなど、ブラッシュアップできればと思います。外国につながる子どもを支援する方、関心がある方のお役に立つことができると嬉しいです。

》 支援で活躍している人はどんな人?

子どもが好きで、子どもによりそって成長をサポートしたい気持ちがある方が多いと思います。中には、教員の経験や日本語教育の経験がある方、保育の資格を持っている方もいますし、親として子どもを育てた経験や、海外で生活した経験など、これまでの経験を生かして活躍されている方がたくさんいます。最近では外国人の方が日本で苦労した経験を生かし、今日本で苦労している子どもたちの力になりたいと支援してくれるケースもあります。

問合せ:045-222-1173

みんなどうしてる? 外国につながる子どもの学習支援教室 活動ヒント集



<https://www.yokeweb.com/katsudohint>

日本語・学習支援教室データベース (横浜)



<http://www.yoke.or.jp/database/search.html>

地域で活動する団体紹介

外国につながる小学生のための
学習支援教室

あおぞら

コロナ禍でのオンライン授業



写真：この日に参加したボランティアとコーディネーターのみなさん

外国につながる小学生のための学習支援教室あおぞら（以下、あおぞら）は、外国につながる小学生を対象として毎月第1・第3土曜日の午前に鶴見国際交流ラウンジで教室を開催している。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年4月・5月の教室が休みとなり、以降も対面での学習支援が行えない状況となっている。そこで、あおぞらでは6月からウェブビデオ会議システム（以下、ビデオ会議）Zoomを使ったオンラインでの学習支援を開始した。

2009年の教室スタート以来学習支援は常に対面で行ってきた。ビデオ会議導入にあたり、利用した経験がある学習支援サポーター（以下、サポーター）から使い方を学ぶところから始まった。このような中であおぞらではどのようにビデオ会議を導入し、学習支援の現場で活用しているのか話を聞いた。



写真：あおぞらの会場 鶴見国際交流ラウンジ

梅雨の晴れ間の6月第3週土曜日。あおぞらの第2回目のビデオ会議を利用したオンライン授業が行われた。会場である鶴見国際交流ラウンジの入口と窓は開けられ、涼しい風が室内を流れている。ラウンジ内は大きく部屋が4つに分けられており、各部屋ではホワイトボードをパーティションとして使った仕切りができています。サポーターは距離を置いて座わり、目の前のパソコンの画面を覗きながら準備を進めていた。この日は、これからオンラインで学習支援を希望するサポーター数名が見学に来訪していた。



写真：パーティションで仕切り、距離を置いて座っている

4名の学習支援コーディネーター木田さん、糟谷さん、工藤さん、宋さんはビデオ会議の操作方法で困っていることがないかサポーターの様子を確認。質問があればすぐに対応する。コーディネーターの4名もビデオ会議を使い始めてから間もない。しかし、サポーターからの質問に迷うことなく丁寧に答えている。ビデオ会議を利用するため、コーディネーターとサポーターは勉強会を開催してきた。その回数は約1か月間に8回。最初はコーディネーターだけで勉強し、その後サポーターを交え、最後に教室に参加する子どもたちへ操作方法を伝えた。「子どもたちはビデオ会議の操作を理解するのがとても早かったです。こちらから説明する前に学びたい教材の写真を撮って送ってくださったりしました」と宋さん。



写真：サポーターの質問に答える宋さん

学習支援教室開始の15分前、コーディネーターの工藤さんが中心となりオンラインでサポーターのミーティングが始まった。出席する子どもの確認や情報の共有を行う。

コーディネーターとサポーターのミーティングが終わると、子どもたちがオンラインで参加。この日参加したのは、中国、ブラジル、ボリビアにつながる子どもたち。最初に、みんなで一緒に体を動かすアクティビティを行う。「まーえ」「うしろ」「ひーざ」と言いながら手を移動し2回手拍子をする。あおぞらではいつも学習前にみんなで一緒に動き一体感を持つことを大切にしている。オンラインでも学習前にみんなで一緒に動いてから、サポーターとの1対1の学習に入る。



写真：モニター越しに子どもたちに話しかける

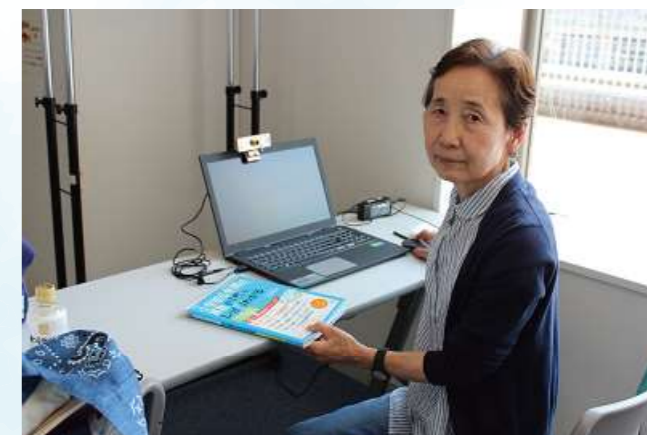
新型コロナウイルス感染症が広がる前、あおぞらには1日平均24.4名の子どもが参加していた。今回はラウンジの会議室利用人数制限とビデオ会議操作ができるサポーターの数に合わせ、参加対象も小学6年生や初期支援が必要な子どもとし人数を減らしての開催となった。授業中は子どもと日本語で話すサポーターと子どもの母語で話すサポーターがあり、子どもに合わせて対応している。教科を教える前に、どのサポーターも子どもたちの様子を聞き、子どもたちが自分の言葉で自分のことを伝えることができるように工夫をしている。教科学習では画面越しに教科書を映し、ホワイトボードを使って子どもたちに説明をするサポーターの姿が見られた。



写真：モニター越しに子どもたちに話しかけるサポーター

通常の学習支援は10:00～12:00の2時間で行われる。11:00に「おやつタイム」が始まり、子どもたちはおやつを食べながらそれぞれおしゃべりを楽しむ。あおぞらでは学習のほかにこのように一緒にお菓子を食べたり話をすることも大切にしている。コーディネーターの宋さんは「子どもたちは学校では母語で話す機会が少ないけれど、あおぞらにいる間は母語で話しているよ、わからないことがあったらどんどん聞いてね、普段できないことをしていいんだよと伝えていきます」と話す。

オンライン授業は45分で終了。学習時間が終わりに近づいてきたころ、この日見学で来ていたサポーター松井さんがオンラインで子どもたちに教科を教えている姿をコーディネーターの糟谷さんが発見。松井さんに感想を聞いたところ「画面越しはもどかしさを感じますが、1対1で子どもが集中せざるを得ない環境は良いかもしれません。書いたものがすぐ見れなくてチェックがしにくいことや、子ども同士のつながりができないのが気になる点です」と話してくれた。



写真：見学で来た松井さんもオンライン授業を実践！

（6月）現在、鶴見国際交流ラウンジは部屋の利用人数制限により、通常の1/3しか入ることができない。あおぞらでは新型コロナウイルス感染症の影響が収まるまで、ビデオ会議で学習支援を行うとともに、ビデオ会議を使うことができない子どもは来館で対応するなど分散型で行っていくことを検討している。

Information

外国につながる小学生のための学習支援教室 あおぞら

開催：毎月第1・第3土曜日 10:00～12:00

問合せ：鶴見国際交流ラウンジ 電話 045-511-5311



あおぞら コーディネーターのみなさん